

2016年度(平成28年度)学校評価報告書

1. 教育目標・重点目標

本校では以下に示した建学の精神及び教育方針に基づいて「社会から必要とされる学校づくり」「安心・尊敬・信頼の対象となり、信用され得る人物の育成」を目標に日々教育活動を行っております。その教育活動等の成果を検証し改善を行うことにより、生徒がより高い教育活動を享受できるよう望ましい学校運営の発展を目指し教育水準の向上を図ります。そのための具体策として、25項目の重点目標・評価項目を設定し、教職員・保護者・生徒による三者の学校評価アンケートを実施いたしました。集計結果は別表のとおりです。内容を詳細に分析・検討し、次年度の重点目標・具体的取り組みを設定し、目標(Plan)－実行(Do)－評価(Check)－改善(Action)というPDCAサイクルに基づき継続的にその伸長・改善に取り組んでまいります。

《建学の精神》 徳・健・財、三拍子そろった姿でルールを守り、世の中のために尽くす人間となるために、勤勉努力する理想的な人物を育成する。

《教育方針》 勤勉と責任とを重んじ、自立的精神を養うと共に、明朗にして誠実、常に希望の中に幸福を見出し、社会の全てから「安心」と「尊敬」と「信頼」の対象となり、信用され得る人物を育成するため、仏教を中心とした宗教による教育を実施する。

《清風南海魂》 これらの精神を実現させるべく、清風南海魂を体得するための努力をする。
清風南海魂を体得するために、

- 第1 正しい判断力を育成し、鋭い断行力を養うこと。
- 第2 先祖伝来の宗教を中心に敬神崇祖の念を養い、信仰心を確立し、信念と不屈の精神力を身につけること。
- 第3 常に節制を守り、体力の練磨向上を計り、徹底した精進努力をすること。
- 第4 礼節を重んじ、父母を大切にし、先祖に感謝し、年長者や先生を尊敬すること。
- 第5 素行を正しくして、常に正確な予算生活の実行者となること。
- 第6 常に自利利他・福の神のコースを脱線せぬよう心がけ、急がず、息^{いそ}まずの心構えで勤勉努力を続けること。

2. 学校評価アンケート実施と集計

- (1) アンケート実施に当たっては、教職員・保護者・生徒とも匿名性の担保に配慮し無記名と

した。

- (2) 評価項目の内容は、教職員・保護者・生徒による三者の評価を比較するため、同一内容とした。また、学校全体の状況を把握するため、個人のことでなく学校全体の状況を問う形にした。
- (3) 評価項目は、「学校全体にかかわること」「授業にかかわること」「進路にかかわること」「生徒指導にかかわること」「特別活動にかかわること」「教育相談にかかわること」「環境美化・設備・健康管理にかかわること」「その他」の順に内容的にまとめて配列した。
- (4) 評価基準は、①よくあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない の4段階とした。また、⑤判断できない（よく分からない）を設定し無記入の回答を避け、次回の評価項目設定の際の参考とすることとした。
- (5) 評価レベルとしては、評価基準の①②を肯定評価、③④を否定評価として課題の整理をした。肯定評価が60%以上の項目については、継続してさらに取組を強めていく。60%未満の項目については、その内容を分析し改善・改革に向けての検討課題とする。

※ %は下1桁四捨五入、合計で100%にならないものもある。

- (6) アンケートの参加人数・参加率は次の通り。

教職員：	対象人数 93名	参加人数 90名	参加率 97%
保護者：	1872名	1407名	75%
生徒：	1872名	1804名	96%

・達成・取組状況：参加率（回収率）に関しては、教職員は、休職・産休者を除き全員が参加、生徒は実施日当日の欠席者等を除いて全員が参加した。保護者は、12月の保護者会会場で保護者に直接配布・回答・回収した。

・改善方策：次年度もこの方式で実施するとともに、保護者の参加率を一層高めるよう心がける。

3. 学校評価：達成・取組状況及び今後の改善方策

(1) 全体について

- ① 全評価項目25項目の評価結果の平均は、①よくあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない ⑤判断できない（よく分からない）の順に、
教職員①31%②51%③14%④2%⑤2% 保護者①45%②44%③6%④0%⑤5%
生徒①28%②42%③15%④7%⑤10%
- ・達成・取組状況：評価基準①の比率が、教職員・保護者・生徒とも前年度と概ね同様であった。評価項目全体としては評価基準①及び②（肯定評価）の比率が高く、より高い教育活動を目指して日々努力している結果が見られる。

評価基準①：教職員 26%→31% 保護者 45%→45% 生徒 29%→28%

・改善方策：評価基準③及び④（否定評価）の数値を重く受け止め、詳細に分析しさらに改善を図る。

- ② 全評価項目 25 項目の教職員・保護者・生徒の三者平均は、①よくあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない ⑤判断できない（よく分からない）の順に、

①35% ②45% ③12% ④3% ⑤6%

・達成・取組状況：総合的にみて前年度並みの評価である。

①：33%→35% ②：46%→45% ③：12%→12% ④：2%→3% ⑤：6%→6%

・改善方策：詳細に分析しさらなる改善を図る。

- ③ 全評価項目 25 項目の肯定評価・否定評価・判断できない、の平均は、①+②肯定評価、③+④否定評価、⑤判断できない（よく分からない）の順に、

教職員 82%－15%－2% 保護者 89%－6%－5% 生徒 69%－21%－10%

・達成・取組状況：教職員・保護者・生徒とも前年度と概ね同様のかかなり高い評価である。日々努力している結果が見られ、着実に改善されていることが窺える。

肯定評価①+②：教職員 81%→82% 保護者 88%→89% 生徒 70%→69%

・改善方策：継続してさらに取組を強めていく。

- ④ 全評価項目 25 項目の肯定評価・否定評価・判断できない、の教職員・保護者・生徒の三者平均は、①+②肯定評価、③+④否定評価、⑤判断できない（よく分からない）の順に、

①+②80% ③+④14% ⑤6%

・達成・取組状況：前年度と同様の評価である。

①+②80%→80% ③+④14%→14% ⑤6%→6%

・改善方策：詳細に分析しさらなる改善を図る。

- ⑤ 全評価項目 25 項目のうち肯定評価が 60%以上の項目数は、

教職員 24 項目（96%） 保護者 25 項目（100%） 生徒 21 項目（84%）

・達成・取組状況：教職員・保護者は前年度と同様、非常に高い評価で、日々努力している結果が見られる。

教職員 24 項目（96%）→24 項目（96%） 保護者 25 項目（100%）→25 項目（100%）

生徒 21 項目（84%）→21 項目（84%）

・改善方策：生徒の肯定評価 60%以上の項目数のさらなる増加を目指し、意識して力を入れて取組を強めていく。

⑥ 全評価項目 25 項目のうち肯定評価が否定評価を上回る項目数は、

教職員 25 項目 (100%) 保護者 25 項目 (100%) 生徒 25 項目 (100%)

・達成・取組状況：教職員・保護者・生徒の三者共前年度同様、全項目において肯定評価が否定評価を上回った。日々地道に努力していることが窺える。

教職員 25 項目(100%) → 25 項目(100%) 保護者 25 項目(100%) → 25 項目(100%)

生 徒 25 項目(100%) → 25 項目(100%)

・改善方策：継続してさらに慎重に分析し取組を強めていく。

(2) 各項目について

【学校全体にかかわること：質問項目 1-3】

1. 「本校の教育は全般的に満足できる」

肯定－否定評価：教職員 92%－ 8% 保護者 96%－ 3% 生徒 80%－17%

・達成・取組状況：教職員・保護者・生徒の三者共前年度同様の高い評価である。特に教職員・保護者は肯定評価が各々92%・96%と非常に高い評価。建学の精神・教育方針に基づいた日々の教育活動が理解され、適切な取組が行われていることが窺える。

・改善方策：生徒がさらに一層高い教育活動を享受できるよう教育水準の向上に努めるとともに、学校の活性化や信頼される魅力ある学校づくりを進める。

2. 「本校は建学の精神・教育方針を日々の教育に生かしている」

肯定－否定評価：教職員 84%－14% 保護者 96%－ 2% 生徒 62%－28%

・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の評価である。特に保護者は肯定評価 96%と本校の教育活動に非常に高い評価。教職員・保護者に比べ生徒の評価がやや低いのは、項目の内容が抽象的で、具体的なイメージを抱きにくいことがその理由と思われる。建学の精神・教育方針に基づいて「安心・尊敬・信頼の対象となり、信用され得る人物の育成」を目標とする教育活動、それらを実現させるために体得すべき清風南海魂を全教職員・全生徒の間で共有し、それらに向けた意識を一層醸成するようにする必要があると再認識した。

・改善方策：教職員は建学の精神・教育方針・清風南海魂を常に意識し、生徒に常日頃から折に触れ、具体的行動でもって周知徹底し、生徒に浸透させるよう努める。

3. 「本校は学力向上をめざして積極的に取り組んでいる」

肯定－否定評価：教職員 94%－ 6% 保護者 95%－ 4% 生徒 84%－13%

・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の非常に高い評価である。保護者及び生徒が現在の取組を理解し評価してくれていることが窺える。

・改善方策：難関大学・学部への進学校として、この評価結果を踏まえた改善方策について組織的・効果的に取組を進めていく。

【授業にかかわること：質問項目 4-9】

4. 「本校の多くの授業は内容が充実しており、また理解できるように工夫されている」

肯定－否定評価：教職員 90%－ 8% 保護者 87%－7% 生徒 78%－19%

- ・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様のかなり高い評価である。保護者及び生徒が教職員の授業での取組をかなり評価していることが窺える。『教職員個々のチャレンジプラン（自己目標）』『全校生徒による全教科目授業アンケート』『教職員間授業見学』『教職員研修会』『保護者対象授業参観』等の一層の充実を図り、指導内容や説明・板書・発問などの指導方法についてさらに工夫を重ねる等個々のスキルアップを目指す。
- ・改善方策：“授業第一主義”の本校として地道で継続的な取組を進める。また、ICT（information and communication technology・情報通信技術）の積極的な活用などによる協働型・双方向型の授業革新を推進し、教育の質の向上を目指す。

5. 「本校の先生は教科の質問にきちんと対応している」

肯定－否定評価：教職員 97%－ 3% 保護者 87%－ 5% 生徒 85%－11%

- ・達成・取組状況：三者共前年度のかなりの高評価を維持している。教職員が“生徒の質問にきちんと対応している”結果の評価であることが窺える。
- ・改善方策：生徒の肯定評価を高めるため、継続してさらなる伸長・改善に取り組む。

6. 「本校では学習や進路に関する生徒個人面談が十分に実施されている」

肯定－否定評価：教職員 86%－12% 保護者 90%－ 6% 生徒 71%－19%

- ・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様のかなり高い評価を維持している。生徒の実態を踏まえた個に応じた指導を、『面談集中期間』はもとより年間を通じた『生徒個人面談』で、積極的・継続的に実施している教職員の熱意・苦労が伝わり生徒の満足度もかなり高い。
- ・改善方策：生徒の適性を発見し能力を引き出し、それを発揮できるようにするための工夫を試みながら、生徒の人格的発達のための指導に継続して取り組んでいく。

7. 「本校生は各自の目標をめざして学習に意欲的に取り組んでいる」

肯定－否定評価：教職員 82%－17% 保護者 86%－10% 生徒 70%－22%

- ・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の評価を維持している。保護者の信頼度の高さについても再認識することができた。生徒の肯定評価 100%を目指し、生徒の意識改革やモチベーションの維持にむけて一層の創意工夫に努める。
- ・改善方策：目標を定め、その目標への熱い気持ちが学習パワーの源泉となり、学習に意欲的に取り組むことになる。生徒の発達段階や学力、能力に即した指導にさらに一層強く取り組む。

- 8.「本校が早朝・放課後や休暇中に行っている補習授業等は生徒の学力向上に役立っている」
肯定－否定評価：教職員 81%－16% 保護者 79%－10% 生徒 65%－21%
・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の評価を維持しているが、教職員・保護者の肯定評価に比べ、生徒の満足度はやや低いように思われる。
・改善方策：生徒の実態を踏まえた、個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導の方法・計画等のさらなる効果的な取組を進める。
- 9.「本校の各学年の校内実力テスト・業者テストは適切に計画・実施されている」
肯定－否定評価：教職員 73%－24% 保護者 94%－2% 生徒 79%－16%
・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の評価である。保護者は肯定評価が94%と非常に高く、信頼度の高さを再認識することができた。継続してさらに充実を図っていく。
・改善方策：教師間で連携し役割分担して、さらに一層組織的・効果的に取組を進めていく。

【進路にかかわること：質問項目 10－12】

- 10.「本校の各学年の進路指導は生徒一人ひとりの目標達成に役立つように行われている」
肯定－否定評価：教職員 83%－14% 保護者 81%－8% 生徒 63%－20%
・達成・取組状況：教職員・保護者・生徒の三者共前年度と概ね同様の評価である。各学年において目標を適切に設定し、組織的・継続的に伸長・改善に取り組む必要性も再認識した。
・改善方策：各学年において、生徒の発達段階を踏まえつつ、能力・適正等の理解に必要な資料や進路情報についての収集・活用に一層の充実を図っていく。また、個に応じた適宜・適切な指導に取り組む。
- 11.「本校の保護者面談週間の面談内容・面談形式・日程等は適切である」
肯定－否定評価：教職員 76%－20% 保護者 93%－6% 生徒 71%－12%
・達成・取組状況：保護者は前年度同様非常に高い評価である。保護者面談を通じて学校・生徒に関する様々な情報の適切な伝達・公開を行うとともに、保護者の意見や要望を把握する機会となっていることが窺える。
・改善方策：学校・生徒に関する様々な情報を分かり易く提供するとともに、効果的な取組に向けてさらに改善を進める。
- 12.「本校の保護者対象授業参観週間の参観要領・授業内容・日程等は適切である」
肯定－否定評価：教職員 72%－23% 保護者 85%－10% 生徒 66%－15%
・達成・取組状況：三者共前年度を上回る評価である。保護者には概ね好評のようである。学校の教育現場や生徒の実態を知り課題意識を共有することにより、相互理解が深まることが期待できる。保護者の参加をさらに促進することが課題である。

・改善方策：学校と家庭の共通理解と連携協力の推進を通じて、それぞれの教育力が高められるよう、組織的にさらなる伸長・改善に取り組む。

【生徒指導にかかわること：質問項目 13-14】

13. 「本校生は校則やきまりをおおむね守っている」

肯定－否定評価：教職員 83%－17% 保護者 91%－7% 生徒 61%－34%

・達成・取組状況：保護者は前年度に引き続き非常に高い評価で、その期待の大きさについても再認識することができた。服装・整髪など目に見えるものだけでなく、ルールブックにないルール、社会の常識としてのルール等、規範意識の向上に生徒各人の自覚を促していくことを課題として認識した。

・改善方策：教職員全体として生徒の問題行動の状況を共有し、学校内だけでなく、社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど）を身につけた生徒を育成する。

14. 「本校では日頃から基本的生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーについての指導が行われている」

肯定－否定評価：教職員 86%－14% 保護者 94%－4% 生徒 81%－15%

・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の高評価である。保護者は前年度に引き続き非常に高い評価で、その信頼度の高さについても再認識できた。教職員・保護者・生徒が一体的に取り組み、努力を重ねていることが窺える。さらに一歩進め、生徒が自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるような指導を心がける。

・改善方策：保護者と連携協力して基本的生活習慣を身につけさせるための工夫を試みる。

【特別活動にかかわること：質問項目 15-17】

15. 「本校では校外学習・文化系行事・体育系行事などの学校行事が充実している」

肯定－否定評価：教職員 84%－16% 保護者 87%－12% 生徒 57%－40%

・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の評価で、生徒の満足度も増加傾向にある。各行事の目標・狙い・進め方等について詳細に分析し、相互理解を深めていく

・改善方策：各行事の目標等の達成に向けた意識を共有し、知恵を出し合ってさらなる伸長・改善に取り組む。

16. 「本校の学校行事は、保護者が参加しやすいように日程等が配慮されている」

肯定－否定評価：教職員 58%－40% 保護者 88%－9% 生徒 54%－35%

・達成・取組状況：保護者は前年度を上回るかなり高い評価で、教職員の評価に比べ、高い評価を得ている。保護者会・懇談会・授業参観・文化系行事・体育系行事等に、より多くの保護者の方に参加していただくための工夫をしていく。

・改善方策：各々の行事を個別に分析・検討し、さらに一層参加していただくために組織的・継続的に工夫・改善に取り組んでいく。

17.「本校の部活動は、学習と両立しており、学校生活を充実させるためのものになっている」

肯定－否定評価：教職員 72%－28% 保護者 82%－12% 生徒 67%－24%

・達成・取組状況：保護者・生徒は前年度を上回る評価である。特に保護者は“部活動と学習の両立”にほぼ安心しているように思える。この期待に応える態勢づくりを心がける。

・改善方策：学習優先の中でのクラブ活動として、学習と相乗的効果をもたらす部活動を目指して組織的にさらなる工夫・改善に取り組む。

【教育相談にかかわること：質問項目 18－19】

18.「本校の人権学習は効果的に行われている」

肯定－否定評価：教職員 66%－27% 保護者 77%－6% 生徒 62%－28%

・達成・取組状況：三者共前年度とほぼ同様の評価である。全教職員の間で“人権学習”の目標を共有し、その達成に向けた意識を醸成するようにする。また、命の大切さを説き、相手の人格を尊重し、豊かな人間関係を構築できる生徒を育成するための指導に努める。

・改善方策：『修養行事』『人権に関する講話』『人権教育アンケート』『生活実態調査』、『人権に関する講演会』『人権に関する職員研修』等を効果的に活かし、日常生活に根付いたものとなるように指導をさらに工夫・改善する。

19.「本校生は悩み事や困ったことについて、先生に気楽に相談している」

肯定－否定評価：教職員 77%－18% 保護者 77%－10% 生徒 52%－36%

・達成・取組状況：三者共前年度と同様の評価である。よき相談相手として気楽に相談できる対象としての教職員を目指して常日頃から自らを改革し、生徒一人ひとりにより一層きめ細かい目配りと対応ができる、信頼される教師像になるべく努力する必要性を再認識した。

・改善方策：教職員と生徒との豊かな人間関係を構築し、教育の目的である子どもの人格の完成を目指して、あらゆる相談に適切に対応できる、信頼される人間へと自ら努力する。

【環境美化・設備・健康管理にかかわること：質問項目 20－22】

20.「本校生は清掃活動やごみの分別など、環境美化に取り組んでいる」

肯定－否定評価：教職員 74%－23% 保護者 84%－4% 生徒 65%－27%

・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の評価である。環境に対する意識は社会から求められる基本的なことであり、高いレベルで維持されるべきであると考えます。

・改善方策：『毎月1回の校内大掃除』『年2回のコミュニティ・サービス（学校周辺地域の清掃活動）』『クラブ員による校内清掃活動』等を意識付けの特別日とし、生徒一人ひとりが“環境美化に関して自分に何が出来るか”を考え、具体的取組に反映させる。

21. 「本校の施設・設備はよく整備されている」

肯定－否定評価：教職員 99%－1% 保護者 98%－1% 生徒 85%－11%

・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の非常に高い評価である。2013年に校舎改築完成（創立50周年記念事業の一環）、また、2015年に文部科学省よりスーパーグローバルスクール(SGH)指定校に選ばれてもおり、学習・生活環境のさらなる充実に向けて組織的・効果的に取組を進めていく。また、ICT教育の導入も積極的に推進していく。

・改善方策：『防犯講習会』『防災訓練』『防犯教室』『交通安全教室』『犯罪被害防止教室』『非行防止教室』『薬物乱用防止・防犯教室』『地震・津波警報発令時避難訓練』『教職員救急蘇生法・AED（自動体外式除細動器）研修会』等の成果を踏まえ、施設・設備の充実はもとより、教職員・生徒の安全対応能力の向上を図る。

22. 「本校では健康管理が行き届き、安全な学校生活を送れるような配慮がなされている」

肯定－否定評価：教職員 91%－8% 保護者 94%－2% 生徒 81%－13%

・達成・取組状況：三者共前年度と同様の非常に高い評価である。生徒を対象とする保健（心のケア、薬物乱用防止等を含む）に関する態勢整備や指導・相談の実施に組織的・継続的に取り組んでいく。

・改善方策：日常の健康観察や、疾病予防、生徒の自己健康管理能力向上のための取組をさらに推進する。

【その他：質問項目 23－25】

23. 「本校は保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある」

肯定－否定評価：教職員 78%－14% 保護者 86%－10% 生徒 53%－25%

・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の評価で、保護者にはかなり好意的に受け取っていただいているようである。

・改善方策：保護者の意見や要望の把握・対応に組織的・継続的に取り組み、より良い信頼関係の構築に努める。

24. 「本校では保護者への連絡や情報公開は適切に行われている」

肯定－否定評価：教職員 86%－8% 保護者 93%－5% 生徒 63%－17%

・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の高い評価であるが、特に保護者の評価は高い。教職員が創意工夫して保護者とのより良い信頼関係の構築に努めていることが窺える。本校の取組等をより広く周知するための工夫を組織的・効果的に進めていく。

・改善方策：学校に関する様々な情報の伝達・公開を適切に行い、共通理解を通じて、相互の連携協力の促進が図られ、また、学校・家庭それぞれの教育力が高められていくように、さらに一層の伸長・改善に取り組む。

25. 「本校への電話や訪問の際に学校はていねいに対応している」

肯定－否定評価：教職員 93%－ 4% 保護者 95%－ 3% 生徒 64%－13%

- ・達成・取組状況：三者共前年度と概ね同様の評価で、特に保護者の非常に高い評価は、教職員の適切な対応の結果であることが窺える。学校の全貌・現状・取組を全教職員の間で共有し、組織的に取り組む体制の整備に留意する。
- ・改善方策：継続してさらに伸長・改善に取り組む。

4. 学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会を開催し、自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策、次年度の重点目標や評価項目等の在り方等についての評価を行った。また、学校の現状について委員と学校の相互の共通理解を深めるための意見交換を行った。

上に掲げた事項以外の意見・提言

- ・学校評価に関する取組は 2008 年度(平成 20 年度)から行っているが、今回の学校評価の分析・検討、達成・取組状況及び今後の改善方策は本校の教育活動・環境の一層の充実を確信させる。
- ・各教職員は、この学校評価結果の生徒・保護者の声を真摯に受け止め、生徒がより良い教育活動を享受できるよう、プロの教師として一層の研鑽を積んでいただきたい。
- ・学校に対する保護者の関心が高まる中で、学校の現状、生徒の現状に関して、保護者との共通理解を持つことにより、相互の連携協力の促進が図られること、また、学校・家庭それぞれの教育力が高められることを期待している。
- ・知の教育と心の教育で、生徒の人格の完成を目指し、また、グローバル化が進行する中で、これからの世界を牽引する人材の育成に向けて、積極的に取組を進めていただきたい。
- ・2013 年に校舎改築完成（創立 50 周年記念事業の一環）、また、2015 年に文部科学省よりスーパーグローバルスクール（SGH）指定校に選ばれ、新しい歴史が刻まれたこの機を節目にさらに一步飛躍し、建学の精神及び教育方針に基づいた教育活動をより充実したものにしていくための努力をしていただきたい。

本校としては、学校関係者評価委員会の評価を受け止め、今後も学校評価を教育水準の向上と保証を図るためのツールとして活用し、生徒・保護者の満足度の高い学校づくりに邁進し、その負託に応えていく所存です。

5. 自己評価及び学校関係者評価の結果の公表、報告書の設置者への提出

自己評価及び学校関係者評価の結果について、本校ホームページに掲載し公表した。また、それらを取りまとめた報告書を設置者に提出した。

※この報告書は、自己評価の結果と学校関係者評価の結果を併せてとりまとめ、作成した。

以上

2016(平成28)年度 学校評価 自己評価(教職員対象) アンケート

2016年12月
清風南海中学校・高等学校
校長 平岡 正巳

2007年(平成19年)年6月に「学校教育法」、同年10月に「学校教育法施行規則」の改正により、自己評価及び学校関係者評価の規定が設けられ、2008年(平成20年)年1月、文部科学省より「学校評価ガイドライン[改訂]」が作成されました。さらに、2010年(平成22年)7月20日に、学校の第三者評価の在り方に関する記述を充実し、「学校評価ガイドライン[平成22年改訂]」に改訂されました。

さて、本校では建学の精神・教育方針に基づいて「社会から必要とされる学校づくり」「安心・尊敬・信頼の対象となり、信用され得る人物の育成」を目標に日々教育活動を行っています。この調査は、その教育活動等の成果を検証し、改善を行うことにより、生徒がより良い教育活動等を楽しむよう学校運営の発展を目指し、教育の水準の向上を図るために実施するものです。

つきましては、あとの質問について、先生方が平素どのように感じておられるか、ご回答いただければと思います。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

- ①よくあてはまる
- ②ややあてはまる
- ③あまりあてはまらない
- ④全くあてはまらない
- ⑤判断できない(よく分からない)

集計結果

番号	質問項目	①	②	③	④	⑤	%
1	教職員からみて、本校生は本校の教育は全般的に満足できていると思っている。	27		66			71
2	本校は建学の精神・教育方針を日々の教育に生かしている。	29		56	12		42
3	本校は学力向上をめざして積極的に取り組んでいる。	54		40		6	66
4	本校の多くの授業は内容が充実しており、また理解できるように工夫されている。	39		51		8	68
5	本校の先生は教科の質問にきちんと対応している。	68		29			97
6	本校では学習や進路に関する生徒個人面談が十分に実施されている。	41		44	12	0	67
7	本校生は各自の目標をめざして学習に意欲的に取り組んでいる。	18		64	17		49
8	本校が早朝・放課後や休暇中に行っている補習授業等は生徒の学力向上に役立っている。	32		49	13	23	54
9	本校の各学年の校内実力テスト・業者テストは適切に計画・実施されている。	30		43	21	32	56
10	本校の各学年の進路指導は生徒一人ひとりの目標達成に役立つように行われている。	24		59	11	32	56
11	本校の保護者面談週間の面談内容・面談形式・日程等は適切である。	23		52	19	4	54
12	本校の保護者対象授業参観週間の参観要領・授業内容・日程等は適切である。	22		50	21	24	53
13	本校生は校則やきまりをおおむね守っている。	18		66	13	3	67
14	本校では日頃から基本的な生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーについての指導が行われている。	34		51	11	3	69
15	本校では校外学習・文化系行事・体育系行事などの学校行事が充実している。	33		51	14	0	68
16	本校の学校行事は、保護者が参加しやすいように日程等が配慮されている。	18	40		37	32	57
17	本校の部活動は、学習と両立しており、学校生活を充実させるためのものになっている。	21		51	23	40	65
18	本校の人権学習は効果的に行われている。	13		52	19	8	52
19	本校生は悩み事や困ったことについて、先生に気軽に相談している。	11		66	17	16	54
20	本校生は清掃活動やゴミの分別など、環境美化に取り組んでいる。	19		56	22	1	58
21	本校の施設・設備はよく整備されている。	49		50		0	99
22	本校では健康管理が行き届き、安全な学校生活を送れるような配慮がなされている。	38		53		81	92
23	本校は保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある。	26		52	14	8	60
24	本校では保護者への連絡や情報公開は適切に行われている。	31		54	8	7	60
25	本校への電話や訪問の際に学校はていねいに対応している。	52		41		42	95

平成28年度 清風南海中学校・高等学校 学校評価(図表版)

1 めざす学校像

<ul style="list-style-type: none"> ・「安心」「尊敬」「信頼」の対象となり信用される人物の育成 ・社会から必要とされる学校
--

2 中・長期的目標

<p>(1) 生徒指導の充実</p> <p>ア.基本的生活習慣を確立し正しい身嗜みを励行するようさらなる指導を行う。</p> <p>イ.相手の話をよく聴き、礼儀正しく、他者を思い遣る心を育てる。</p> <p>(2) 学習指導の充実</p> <p>授業の質を高め、そのことにより生徒の満足度を高める。</p> <p>(3) 進路指導の充実</p> <p>生徒一人ひとりの目標達成に役立つ、きめ細やかな進路指導を行う。</p> <p>(4) 信頼され魅力あふれる学校づくり</p> <p>地域、保護者、生徒、教員など誰からも信頼され、魅力あふれる学校づくりを行う。</p>

3 本年度の取組みと達成状況

目標	重点目標	今年度の取組計画・内容	評価指導	自己評価	次年度に向けての改善策
生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣を確立し正しい身嗜みを励行するようさらなる指導を行う。 ・相手の話をよく聴き、礼儀正しく、他者への思いやる心を育てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の朝礼等を通じて、服装・整髪など目に見えるものだけでなく、ルールブックにないルール、社会の常識としてのルール等、規範意識の向上に生徒各人の自覚を促していく。 	<p>「校則やきまりをおおむね守っている。」(アンケート13)</p> <p>「日頃から基本的生活習慣や社会のルール・日常生活のマナーについての指導が行われている」(アンケート14)</p>	<p>肯定：教職員 83% 保護者 91% 生徒 61%</p> <p>肯定：教職員 86% 保護者 94% 生徒 81%</p>	<p>教職員全体として生徒の問題行動の状況を共有するとともに、毎日の朝礼等を通じて、学校内だけでなく、社会の一員としての意識（公平、公正、勤労、奉仕、公共心、公德心や情報モラルなど）を身につけるよう指導をさらに徹底する。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動を学習と両立した学校生活の充実に資するものとする。 	<p>「部活動は、学習と両立しており、学校生活を充実させるためのものになっている」(アンケート17)</p>	<p>肯定：教職員 72% 保護者 82% 生徒 67%</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ・他者を思いやる心を育てる。 	<p>「人権学習は効果的に行われている」(アンケート18)</p>	<p>肯定：教職員 66% 保護者 77% 生徒 62%</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒等のよき相談相手として気楽に相談できる教師をめざす。 	<p>「生徒は悩み事や困ったことについて、先生に気楽に相談している」(アンケート19)</p> <p>「保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある」(アンケート23)</p>	<p>肯定：教職員 77% 保護者 77% 生徒 52%</p> <p>肯定：教職員 78% 保護者 86% 生徒 53%</p>	
<p>※肯定評価が教師・保護者・生徒ともにおおむね70%を超えており、成果がうかがえる。気軽に相談できるかは、生徒・保護者ともに50%代と低くさらなる改善に取組む。</p>					

<p>(2) 学習指導の充実</p>	<p>・授業の質を高め、そのことにより生徒の満足度を高める。</p>	<p>・『教職員個々のチャレンジプラン（自己目標）』『全校生徒による全教科目授業アンケート』『教職員間授業見学』『教職員研修会』『保護者対象授業参観』等の一層の充実を図り、指導内容や説明・板書・発問などの指導方法についてさらに工夫を重ねる。</p> <p>・生徒の実態を踏まえた個に応じた指導を、『面談集中期間』はもとより年間を通じた『生徒個人面談』で、積極的・継続的に実施している。</p>	<p>「学力向上をめざして積極的に取り組んでいる」(アンケート3)</p> <p>「多くの授業は内容が充実しており、また理解できるように工夫されている」(アンケート4)</p> <p>「各自の目標をめざして学習に意欲的に取り組んでいる」(アンケート7)</p> <p>「早朝・放課後や休月中に行っている補習授業等は生徒の学力向上に役立っている」(アンケート8)</p> <p>「本校の先生は教科の質問にきちんと対応している」(アンケート5)</p> <p>「学習や進路に関する生徒個人面談が十分に実施されている」(アンケート6)</p>	<p>肯定：教職員 94% 保護者 95% 生徒 84%</p> <p>肯定：教職員 90% 保護者 87% 生徒 78%</p> <p>肯定：教職員 82% 保護者 86% 生徒 70%</p> <p>肯定：教職員 81% 保護者 79% 生徒 65%</p> <p>肯定：教職員 97% 保護者 87% 生徒 85%</p> <p>肯定：教職員 86% 保護者 90% 生徒 71%</p> <p>※肯定評価が教師・保護者・生徒ともに70%を超えており、成果がでていることがうかがえる。継続してさらなる伸長に取り組む。</p>	<p>“授業第一主義”の本校として地道で継続的な取組を進める。また、ICTの積極的な活用などによる協働型・双方向型の授業革新を推進し、教育の質の向上を目指す。</p> <p>ICT: Information and Communication Technology「情報通信技術」</p>
<p>(3) 進路指導の充実</p>	<p>・生徒一人ひとりの目標達成に役立つ、きめ細やかな進路指導を行う。</p>	<p>・各学年において目標を適切に設定し、組織的・継続的に伸長・改善に取り組む</p>	<p>「各学年の進路指導は生徒一人ひとりの目標達成に役立つよう行われている」(アンケート10)</p> <p>「学習や進路に関する生徒個人面談が十分に実施されている」(アンケート6)</p> <p>「保護者面談週間の面談内容・面談形式・日程等は適切である」(アンケート11)</p> <p>「保護者対象授業参観週間の参観要領・授業内容・日程等は適切である」(アンケート12)</p>	<p>肯定：教職員 83% 保護者 81% 生徒 63%</p> <p>肯定：教職員 86% 保護者 90% 生徒 71%</p> <p>肯定：教職員 76% 保護者 93% 生徒 71%</p> <p>肯定：教職員 72% 保護者 85% 生徒 66%</p> <p>※肯定評価が保護者においては80%を超えているが、生徒は60～70%代であり、継続してさらなる伸長に取り組む。</p>	<p>各学年において、生徒の発達段階を踏まえつつ能力・適正等の理解に必要な資料や、進路情報についての収集・活用に一層の充実を図っていく。また、個に応じた適宜・適切な指導に取り組む。</p>
<p>(4) 信頼され魅力あふれる学校づくり</p>	<p>・地域、保護者、生徒、教員など誰からも信頼される、魅力あふれる学校づくりを行う。</p>	<p>・建学の精神・教育方針・清風南海魂を常に意識し、生徒に常日頃から折に触れ周知徹底し、生徒に浸透させるよう努める</p> <p>・安全安心で快適な学習・生活環境のさらなる充実に向けて取り組む。</p>	<p>「本校の教育は全般的に満足できる」(アンケート1)</p> <p>「施設・設備はよく整備されている」(アンケート21)</p> <p>「健康管理が行き届き、安全な学校生活が送れるような配慮がなされている」(アンケート22)</p> <p>「保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある」(アンケート23)</p> <p>「校外学習・文化系行事・体育系行事などの学校行事が充実している」(アンケート15)</p>	<p>肯定：教職員 92% 保護者 96% 生徒 80%</p> <p>肯定：教職員 99% 保護者 98% 生徒 85%</p> <p>肯定：教職員 91% 保護者 94% 生徒 81%</p> <p>肯定：教職員 78% 保護者 86% 生徒 53%</p> <p>肯定：教職員 84% 保護者 87% 生徒 57%</p>	<p>『防犯講習会』『防災訓練』『防犯教室』『交通安全教室』『犯罪被害防止教室』『非行防止教室』『薬物乱用防止・防犯教室』『地震・津波警報発令時避難訓練』『教職員救急蘇生法・AED（自動体外式除細動器）研修会』等の成果を踏まえ、施設・設備の充実はもとより、教職員・生徒の安全対応能力の向上を図る。</p>

		<p>・地球規模の広い視野を持ち、課題解決に果敢に挑戦するグローバル人材の育成に取り組む。</p>	<p>「保護者への連絡や情報公開は適切に行われている」(アンケート24)</p> <p>「電話や訪問の際に学校はていねいに対応している」(アンケート25)</p> <p>グローバルコースの設置。</p> <p>スーパーグローバルハイスクール指定の獲得。</p>	<p>肯定：教職員 86% 保護者 93% 生徒 63%</p> <p>肯定：教職員 93% 保護者 95% 生徒 64%</p> <p>※いずれの項目も保護者からは 80%を超える高い支持が得られている。「相談の件」「学校行事」については、生徒の評価は 50%代であり、さらなる工夫が必要。</p> <p>H27.4.1 設置 高1 27/75名在籍 高2 27/78名在籍 文科省から指定。</p>	<p>グローバルコースを次年度に高1、高2、高3に広げるとともに、補助事業のさらなる充実を図る。</p>
--	--	---	--	---	--